

# 教育委員会提出議案

## 第6号議案

豊島区文化財の登録について（文化財保護審議会への諮問）について  
上記の議案を提出する。

令和4年3月9日

豊島区教育委員会教育長 金子智雄

### （説明）

豊島区文化財保護条例第23条第1項第3号の規定による諮問を行うため、本案を提出する。

※ 第23条 審議会は、委員会の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を調査審議して、答申する。

### （資料）

別添のとおり

## 豊島区文化財保護審議会への諮問（文化財の登録）について

### 1. 根拠法令

豊島区文化財保護条例第23条第1項第3号による

### 2. 諮問事項

#### （1）文化財の登録

##### ①有形文化財（建造物）

婦人之友社社屋

1棟

### 3. 諮問理由

別紙「諮問書」（案）の通り

諮 問 書



豊島区教育委員会

3 豊教庶発第 号  
令和 4 年 3 月 9 日

豊島区文化財保護審議会 様

豊島区教育委員会

豊島区文化財の登録について（諮問）

豊島区文化財保護条例第 23 条第 1 項第 3 号の規定により、下記の候補物件について、豊島区文化財に登録することが適当であるか諮問致します。  
ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

記

【候補物件 1】有形文化財（建造物）

婦人之友社社屋

1 棟

以上

## 【文化財登録候補物件1】

1. 名称 婦人之友社社屋
2. 員数 1棟
3. 登録種別 豊島区登録有形文化財（建造物）
4. 所在地 豊島区西池袋2-20-16
5. 所有者 株式会社婦人之友社 豊島区西池袋2-20-16
6. 登録基準 豊島区文化財登録基準 第1 豊島区登録文化財 1 豊島区登録有形文化財（1）建造物「ア 区の歴史又は地域的特色において重要なもの」、「イ 意匠的又は技術的に優れているもの」および「ウ 歴史的又は学術的に価値があるもの」に該当する。
7. 登録理由 本建物を所有する婦人之友社は、隣接する自由学園明日館を創設し、校舎の設計をフランク・ロイド・ライトに依頼した羽仁吉一・もと子が、明治36（1903）年に創業した出版社で、この社屋は、昭和38（1963）年に創業60年を記念して建てられた。大明建設が施工し、構造は鉄筋コンクリート造で、地上3階、地下1階、陸屋根の建物である。設計は遠藤楽。ライトの弟子、遠藤新の長男で、昭和24（1949）年に遠藤新建築創作所に入社。昭和32（1957）年に渡米し、アメリカで直接ライトの指導を受けている。

本建物の設計に当たって遠藤は、『自由学園』、『婦人之友』、そして『友の会』とこの三つとも創始者を同じくするいわば兄弟の関係にある団体である。現在はそれぞれ、独立しているため敷地には一線を画していながらもやはり、兄弟の関係は変わりなく続いている。だからこの建物は事実切り離されながらも、つながりを持たねばならないというむずかしい条件を課せられたのである。』（『建築』1963）と述べており、本建物は、自由学園明日館講堂（昭和9（1934）年築）と、自由学園友の会友の家（昭和37（1962）年築、平成19（2007）年解体）と一体的にデザインされたことが伺われる。

外部は、腰壁と植栽周りには大谷石を使用し、建物全体は上層に行くに従い、少しずつ広がるデザインになっている。階段を囲む壁面の小窓に嵌め込まれているステンドグラスは、友の家の屋上に設置されていた手摺り（現在は明日館の南側フェンスとして再利用）と似たモチーフで、直交する直線を重ねたデザインで作られている。

内部は、必要なスペースが仕事の内容に応じて各階に纏められ、1階に事務室・社長室・応接室、2階に編集室、3階に会議室が配置されており、廊下で諸室をつなげるような一般的な事務所建築とは異なった部屋の配置となっている。

主な改修履歴は、外部のデザインに関わる部分では、昭和46（1971）年に倉庫の増築を行っているほか、昭和62（1987）年に北側と東側の

谷石の石積みを改修している。また、平成7（1995）年に発送室東側のガラス戸が事故により損壊したため改修し、当初とは異なるタイプの建具が入れられている。内部については、昭和60（1985）年に2階・3階の煙突を囲む煉瓦を断熱材で覆う工事が行われている。また、平成12（2000）年に階段室に手摺りを設置し、平成19（2007）年に1階玄関にスロープを設置するなどバリアフリー化が進められ、平成26（2014）年には1階事務室の床をOA対応に改修している。しかし、ロッカーや作り付けの棚、サッシ、洗面所・現像室の水回りのタイルなどは当初のものが残されている。

建物本体に加えて、当初の設計図面・施工図面や詳細な施工記録の写真、設計図面に基いて作成された模型も残されており、設計過程の解明にもつながるものと考えられる。

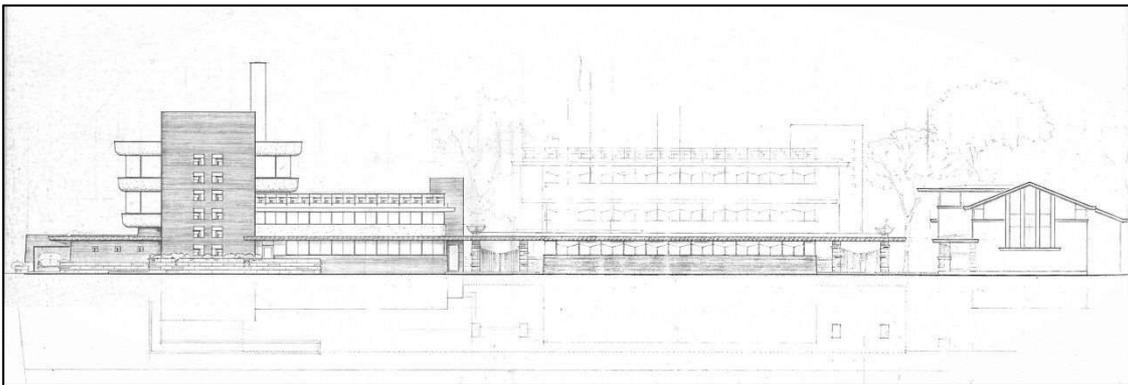
婦人之友社社屋は、戦後建築の建物であるが、隣接する自由学園明日館を設計したライトの系譜を引く設計者によるものであり、平面構成や意匠にライトの思想・手法が継承されている建物である。また、親子で世界的建築家と師弟関係にあった設計者の建物と、師の手による建物とが隣接しているという事例は極めて貴重であり、これら一群の建物を保存する意義は大きい。加えて、今後、公開施設として活用される予定もあると聞く。これらのことから、婦人之友社社屋を、保存・活用すべき豊島区の文化財として登録することが適当である。

#### 8. 参考文献

遠藤楽「婦人之友社」『建築』(1963) 青銅社

遠藤楽「設計者のことば」『婦人之友』(1963) 婦人之友社

遠藤楽作品集編集委員会『楽しく建てるー建築家遠藤楽作品集ー』  
(2007) 丸善株式会社



(遠藤楽作品集編集委員会『楽しく建てるー建築家遠藤楽作品集ー』)











社屋外観① 北東側



社屋外観② 南東側（車庫）



社屋外観③ 北西側



社屋外観④ 南側



社屋外観⑤ 南西側



社屋外観⑥ 玄関



社屋内部① 小応接室



社屋内部① 会議室



小応接室 照明



会議室 照明



社屋内部③ 玄関ホール



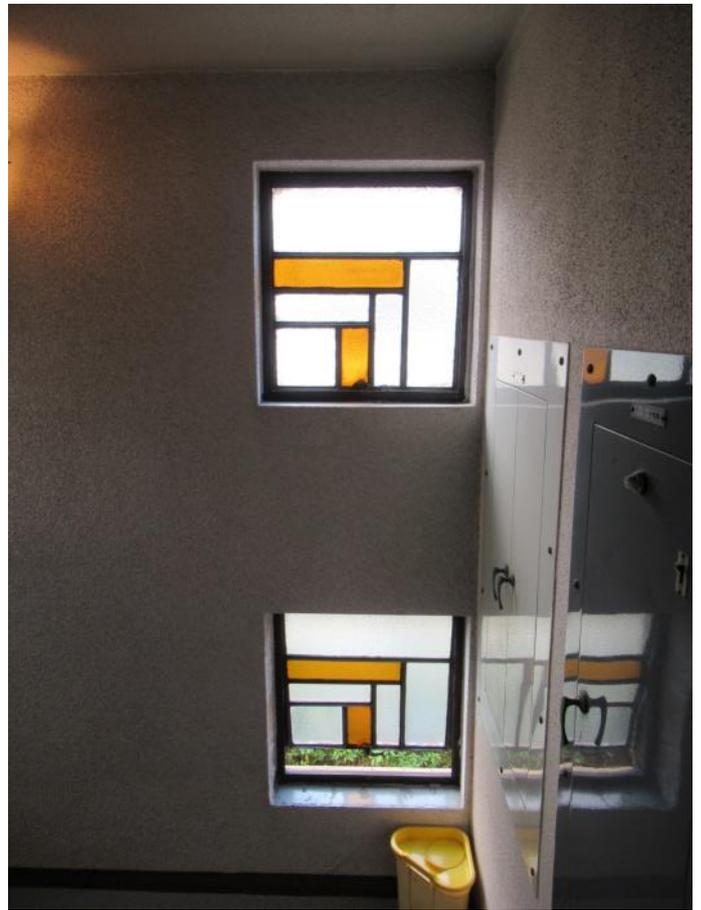
社屋内部④ 発送室



社屋内部⑤ 倉庫（旧車庫）



社屋内部⑥ 階段室



社屋内部⑦ 階段室ステンドグラス



社屋内部⑧ 3階会議室 柱



社屋内部⑨ 3階会議室 窓サッシ